

巻頭言

「変えることのできないもの」と 「変えることのできるもの」 — 新たな協同労働実践の幕開けに寄せて —

大高 研道 (明治大学教授/協同総研常任理事)

神よ、

変えることのできるものについて、
それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。

変えることのできないものについては、
それを受けいれるだけの冷静さを与えたまえ。

そして、

変えることのできるものと、変えることのできないものとを、
識別する知恵を与えたまえ。

(ニーバーの祈り[大木英夫訳])

去る3月3-4日に開催された「全国よい仕事研究交流集会2018」は、新たなワーカーズの時代の幕開けを感じさせる集会であったように思われる。その重要な変化の一つは「地域に出て行く、知ってもらおうワーカーズ」から「地域の人びとがつかい、困りごとを持ち込んでくるワーカーズ」への展開に見出すことができる。初日のラストを飾った「地域課題の解決のためのワーカーズコープづくりに挑戦する地域報告」は、そのことを強く感じさせるものであった。市民や自治会がワーカーズコープを立ち上げようとする試みは、地域の困りごとを持ち込める場として

のワーカーズの今日的到達点といえるのではないだろうか。そこにあるのは、「ワーカーズにつながっていれば何とかなる!」という思いや安心感である。何かあったときに頼れる存在としてワーカーズがいる、或いはワーカーズが存在が思い浮かぶということは、地域の拠り所としてのワーカーズの挑戦が着実に実を結んでいることを示している。

もちろん、転機は決して急にやってきたわけではない。長年の協同労働の蓄積に鑑みれば、このような展開はある種の必然だったとも言える。その上

で、あえて「歴史的現在」という流れの中でワーカーズの「今」を考えると、やはり大きなターニングポイントになったのが東日本大震災とその後のワーカーズの取り組みだったのではないだろうか。

先日(4/2)、半年振りに登米のワーカーズに伺った。振り返ってみれば、初めて東北復興本部を訪問した2011年8月8日は、翌日の「緊急雇用創出事業登米市震災対応人材育成事業」申請のプレゼンに向けた準備に田中羊子さんが奔走している時だった。それが、東北復興本部の取り組みの中で生まれた最初の事業所になった。次に訪れたのは、人材育成事業第1期の頃で、青木未知さんが所長として奮闘していた。失敗や問題だらけの大変な時で、必ずしも順調に仕事づくりが進んでいるとはとてもいえる状況ではなく、正直、私自身、どうにもならないのではないかとさえ思ってしまった。難産の末にうまれた高齢者通所介護施設「はっぴいデイ」の設立準備過程でも、聞くも涙、語るも涙の苦悩や葛藤の連続だった。その後、何度か訪問し、昨年夏にはゼミ合宿でもお世話になっているが、当初のことを思い起こすと、その後の実践の発展には驚きと畏敬の念さえ感じている。

地域産業の衰退や過疎化に直面して

いる東北の地方都市出身の私には、農山漁村地域の現状は、無理な延命措置を取らされ、絶望を抱えたまま為す術も無く現実を受け入れているようにみえる。東日本大震災が襲ったのは、そのような多くの「限界集落」と称されてきた地域である。震災によって私たちは多くの貴重な命を失った。そして、7年経った今、被災地では再び何かを失いつつある。今、彼の地では補助金がなくなると潮が引くように企業や支援団体が撤退し、後には、未来への展望が持てないだけでなく、次の世代にその伝統文化や技を引き継ぐ気力さえ失った人びとが残されることになった。

しかし、震災が残したものは諦めと絶望だけでなかった。そこには、自ら地域を遺し、創っていかうとする地域住民がおり、そしてその自助と自立を協同の力で成し遂げるための支えになろうとする人びとや組織もいた。それがワーカーズである。この経験が、地域を超えて全国各地の実践に大きな刺激を与えていることは間違いない。そして、「いのちと社会に向き合う協同労働」を通して蓄積された「協同の知」が、時空を超え、「人と地域を思いやる『自立・協同・愛』の文化」(第2原則)として、未来に継承されようとしている。

「変えることのできないもの」を受けいれる冷静さは必要である。しかし、ワーカーズの実践に接していると、ひょっとして私たちは「変えることのできるもの」を「変えることのできないもの」として端から諦めてしまっているのではないかと気づかされる。諦めと絶望が先行し、成り行き任せの客体化した状態に慣れてしまった私たちに必要なのは、「変えることのできるものと、変えることのできないもの」とを、識別する知恵」であり、「変えることのできるもの」を「変えるだけの勇気」であることを教えてくれたのが

震災後の7年間の道のりだったのではないだろうか。

「私たちは、発見した。…私たちは、知った。…私たちは、直面している。…私たちは、宣言する。…」。「協同労働の協同組合の原則『宣言』」を読み直し、今、私はあらためて「自立と協同の新しい時代を、いま、ここに、共に、切り拓くことを」めざすワーカーズのこれまでとこれからの歩みに思いを巡らせ、希望とともに生きていく勇気を胸に抱くことができるようになっている。